

令和8年 11月4日(水)~7日(土)

ほう

おん

こう

報恩講

浄土真宗にとって一年でもっとも大切なご縁
親鸞聖人の御命日法要(報恩講)です。ぜひご参拝ください。

報恩講日程

4日(水) 13時
5日(木) 7時/10時/13時30分
6日(金) 7時/10時/13時30分
7日(土) 7時/10時

げんざ さんこう
還座式&讃仰の集い

4日(水) 13時~15時30分

講師【鈴木君代師】

※日程の詳細は別院だよりをご覧ください。



講師 島 潤二 師 1947年(昭和22年)生まれ
(九州教区山門西組 仁業寺 前住職)

(元) 同朋会館 教導

- 〃 同和推進本部(現在解放運動推進本部)本部委員
- 〃 大谷派教師修練 道場長
- 〃 函館別院 輪番

報恩講 講師メッセージ 島 潤二

講題 「弥陀の大恩」

もう十年余りも前のことになります。あるお寺から法話の依頼を受けました。講題は、「南無阿弥陀仏とは何か。」この講題を見て、私は、私がいかに「念仏によるすくい」について正面から考えていなかったかを思いしらされました。

ただ念仏して弥陀にたすけられる一親鸞聖人の教えの根幹がここにあることは当然知っていました。真宗の僧侶としての私の活動の中心は、法話も含めて、このことを考え伝えることにあったこと知っていたことです。

では私は、この教えのことばについて正面から考え、お話をすることをしてきたのか。私は、念仏によるすくいを自明のこと、わかりきったことにしてしまい、真宗を考える上での結論あるいは前提のようなものにまつりあげ、結果的にはそのことについて深く考えることを放棄していたのではと思ひしらされました。

真宗の僧侶として最も大事な「南無阿弥陀仏とは何か」「念仏によるすくい」このことについて正面から考えてみよう。遅ればせながらの覚悟をしたのでした。

それからの私の歩みは遅々としたものです。

「わからないことはわからない。わからないことをわかったことにはしない」若いころからの信条は今も捨てていません。その中で「弥陀の大恩」という講題で話す。このことは勿論、親鸞聖人のことばですが、我ながら大それたことをとも思います。でもこの十年余り、いえ、八十年近く私なりに誠実に考え続けてきた中で、私も不思議なくらい、少しすっきりした結論が、この講題にふさわしいのです。

真宗の僧侶として歩むに際して大切なお育てをいただいた長崎組の方々とともに、佐世保別院の報恩講でこのことを考えていけることを、喜びと楽しみにしています。



真宗大谷派（東本願寺）佐世保別院

〒857-0806 長崎県佐世保市島瀬町 4-18 TEL 0956-22-4846